

「経験値」から「実践知」へ

7月21日(火)令和2年度第一学期が終了します。4月16日(木)に変則スタートを余儀なくされた今学期でしたが、コロナウイルス感染症の対応は、人間の「命」を守る「実践知」を学ぶ貴重な経験となりました。

私たちは、安全と安心が保障されないうちで、目に見えない恐怖に怯えつつ、明るい未来が必ずやってくることを信じ、教育現場でできる限りの工夫を行って来ました。この期間には、国や県が出した様々な指示事項を踏まえながら、本校での学びが深まり、人間が生きていくために必要ないくつかの行動のあり方を追究する日々でした。この姿勢は夏季休業中、第二学期以降も貫いていくべきことと気持ちを持っていくべきこととを大切にしたいです。

一学期の終了に当たり、本校の成果をふり返ります。

- (1) 「情報メディア科」のある学校として、コロナ対応の方法を工夫・研究する機会を得たことが認められたこと。メディア科のノウハウを普通科の生徒や教職員にもシェアできたこと。
- (2) 健康教育部が作成した「新型コロナウイルス感染症に関する連絡」用紙を使って生徒・保護者から体調に関する連絡が来たら速やかに対応する流れが確立したこと。これにより、全県の学校で活用されたこと。
- (3) 「三密」を避ける授業を展開したことで、クラスの人数が多いため授業を教室から視聴覚室に移したり、総合的な探究の時間や集会時には、ソーシャルディスタンスを意識し並び方や配付を工夫して実施できたこと。外部からの講師による取組は、コロナの影響で細心の注意を払って実施することができた。

本来実施する予定だった、運動会や全校鳥海登山、各部活動の大会、例年行っていた観光協会や商工会等の主催行事がなくなり、本校の教育活動の「核」になっている地域のふれ合いを通じた「実践知」を今後、少しでも復活できなければいけません。

他校にはない教育がある！

全校鳥海登山は、仁賀保高校の教育活動のなかで、スペシャルなものであると考えます。かつては、秋田市の高生や本校の登山部、行事と学校行事の精選が進み、現在実施しているのは、矢島高校と本校で汗を流す機会が限られてきました。7月18日(木)、私は老体に鞭打って山頂をめぐらせ、清らかな海風を浴び、雄大な風景は、鉾立山荘からヘリコプターで山頂へ降り立って観ることも、野鳥の声を聞きながら、大地を踏みしめ鳥海山中を歩かず前進すること、辛くなっても仲間(先生)を頼り、「師友もろとも手を取りて」悔いのない貴重な体験は、私たちに生きるヒントや学ぶ方法を教えてくれます。今年度の開催は、断念せざるを得ませんでした。

★ アイコンタクト (i contacts) を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！

★ メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。

★ 意識力 = 意思・意志 (瞬間) + 気力 (持続) です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。

★ GTH は、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。

★ 「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたはなに挑戦しますか？
自分が誰かの役にたつためには、感謝の心と自己肯定感を持つことが大切です！

★ NPT は仁賀保高校プログラミング思考の略称です。NPTを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、Trial&Errorで進めましょう！